

大名庭園サミット水戸大会開催  
 伝統文化の継承と交流の拡大へ！

サミットには、金沢城・兼六園研究会から二二名、岡山藩郡代・津田永忠顕彰会から二四名、NPO法人小石川後楽園庭園保存会から四七名、栗林公園ボランティアガイドクラブから一七名の参加があり、地元水戸からも会員のほか多数が参加して充実した交流が持たれ、来年の小石川後楽園での再会を誓って別れました。

大名庭園サミット水戸大会  
 第二回大名庭園民間交流協議会

中秋の名月の九月十四日、十五日、水戸市で第三回大名庭園民間交流協議会が開催されました。協議会は、三年前に本会の発足を期して第一回大会を金沢で開き、昨年は岡山で第二回大会を開催、第三回目は今年に五つの庭園すべてをかかわりの深い水戸の地で開催されました。

大会は「大名庭園と茶の湯文化」をテーマとして茨城県と水戸市の支援のもと、初日の役員会の後、総会と記念シンポジウム（茨城県立歴史館）、偕楽園萩祭りの野点茶会と名月観賞（偕楽園）、交流・懇親会（三の丸ホテル）、二日目の朝の散歩（弘道館）、県主催の公開講座に合流しての記念講演会（茨城県立図書館）、午後のエクスカージョンの諸行事が行われました。

サミットには、金沢城・兼六園研究会から二二名、岡山藩郡代・津田永忠顕彰会から二四名、NPO法人小石川後楽園庭園保存会から四七名、栗林公園ボランティアガイドクラブから一七名の参加があり、地元水戸からも会員のほか多数が参加して充実した交流が持たれ、来年の小石川後楽園での再会を誓って別れました。



とも  
 たの

偕  
 楽  
 し  
 び

偕楽園公園を  
 愛する市民の会

水戸大会のようす

総会

茨城県立歴史館講堂において午後一時四十分から総会が開催されました。和田会長の挨拶、来賓代表の茨城県知事代理栗田則夫土木部次長、加藤浩一水戸市長の挨拶の後、役員会の議事が報告され、承認されました。

パネルディスカッション

コーディネーターの久信田喜一氏（茨城地方史研究会副会長）の基調報告に続いて、五つの団体からそれぞれの公園と茶の湯文化に関して報告されました。報告は、プログラムに印刷されている「大名の茶道の歴史と流派、各庭園にあった茶室名・大きさ・特徴、藩政時代に行われた茶事の様子、現在も行われている茶会の内容・規模・参加者など」の資料に基づいてなされました。



パネラー一同

代表者以外に茶の湯に詳しい人が報告される会もありましたが、内容が多面的なだけに十五分という時間では不足でした。各庭園の多様な茶の湯との関わりが報告され、幕府や他の大名との交際に用いられた小石川後楽園、大名と家族の茶の湯の場となった岡山後楽園と栗林公園、家臣や領民への「お

庭拝見」と一体となった兼六園など、特徴ある使われ方が印象的でした。時間の制限で討論は省略し、久信田氏がまとめを行い、パネルディスカッションを終了しました。

野点茶会

朝の雨がウソのような好天の下、参加者は三々五々偕楽園で開催中の月見の野点茶会に参加し、茶の湯を楽しみました。あたたかも遠来のお客様を歓迎するように、満月も顔を出し一段と風情が増しました。

交流懇親会

午後七時から三の丸ホテルにて一六〇名が参加しての交流懇親会。水戸黄門漫遊一座、梅大使も参加し、地元酒造会社提供の地酒と料理で交流を楽しみました。



橋本知事の挨拶

庄巻は「ああ人生に涙あり」の踊り。ベテランにならって、会場いっぱいみんなまで踊りまくりました。

朝の散歩

歴史アドバイザー水戸の案内で、四班に分かれて弘道館の内外を歩きました。

公開講座

午前十時から、茨城県立図書館にて、茨城県の公開講座として林原美術館長熊倉功夫氏に「庭の中の茶の湯」の演題で講演していただきました。

エクスカージョン

水戸市内観光、水戸ウォーク、笠間稲荷と陶芸博物館見学の三コースに分かれて、水戸と笠間の秋の見どころを楽しみました。

(二面と三面に詳報)

